第１学年　国語科学習指導案

日　時　　平成１６年１０月１５日（金）５校時
児　童　　1年　　男5名　女6名　　計１１名
授業者　　教諭　　山下　みゆき

１　単元名　　　　　こえにだしてよもう　（光村　一下）

２　教材名　　　　　「くじらぐも」　（なかがわ　りえこ）

３　単元について

（１）教材について

本単元は、場面の様子を想像しながら読み、音読や動作化などを工夫して、お話を楽しむことをねらいとしている。文章を声に出し、声で表現することによって想像を広げ、読みを確かなものとしていき、作品の楽しさを味わうものである。

本教材は、空に現れた大きなくじらぐもと１年２組の子どもたちとのふれあいを描いた作品である。体育の授業時間という身近な現実から始まる物語を読み進めていくうちに、読み手の児童も子どもたちと同化して物語の世界へ入り込み、まっ白い雲のくじらに乗って旅をしてみたいという夢を物語の中で実現できる、空想の世界に遊ぶことのできる教材である。児童が、教材に登場する子どもたちに親密感を抱き、自分たちと重ね合わせながら興味を持って読むことのできる作品であると思われる。

（２）児童について

児童はこれまでに、「はなのみち」や「おむすびころりん」でリズミカルに音読をしたり、場面の様子を思い浮かべ、挿絵や文をもとに登場人物の行動や気持ちを想像したりする学習をしてきた。音読では、声の大きさや姿勢に気を付けながら、会話文の読み方を工夫したりする活動をした。また、書く活動では、想像を広げるためにおじいさんやねずみのせりふを考えて吹き出しに書くという活動をした。

これらの学習を通して、場面の様子や登場人物の気持ちを想像したり、それらを進んで発表する態度は育ってきている。

しかし、文章の中の大事な言葉や文をもとにして想像しながら読み取る力は十分とは言えない。また、音読や文字を書くことにおいては大きな個人差がある。

（３）指導にあたって

第１学年及び第２学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。

そこで、指導にあたっては、くじらぐもや子どもたちの行動・会話に着目させ、場面の様子や子どもたちの気持ちを読み取らせていきたい。そこで、行動を表す文を正しくとらえさせる場合は、「く

じらは」「みんなは」という主語に気づかせ、会話文のときには、誰が話した文なのかを確認しながら読ませていきたい。

　また、書く活動では、課題解決につながる文にサイドラインを引いたり、視写したりしながら人物に同化して、子どもたちの気持ちについて思ったことを書き込めるようにしていきたい。

　そして、音読では、会話文の読み方の工夫や役割読み、動作化を取り入れて登場人物になって動いたり、会話をしたりする活動により、場面の様子を想像豊かに読ませていきたい。そのために、授業の中に音読活動を多く設定し、はっきりとした声で読めるようにしていきたい。

4　単元の目標

◎　場面の様子を想像しながら読み、音読や動作化などを工夫して、お話を楽しむ。

5　単元の評価規準

【関心・意欲・態度】

・進んで子どもたちやくじらぐもになりきって音読したり、動作化したりしようとする。

【書くこと】

・くじらぐもへ話しかける言葉で、自分が感じたことを簡単な文章で書く。

【読むこと】

・あらすじを押さえながら場面を想像豊かに思い描いて読む。

・語や文としてのまとまりや内容、呼びかける声の大きさなどを考えながら声に出して読む。

【言語事項】

・片仮名を正しく読んだり書いたりできるようにし、使い方を理解する。

6　指導計画（１１時間）

指導過程	目標（◎）と学習内容	評価 関心意欲	評価 書くこと	評価 読むこと	評価 言語事項	評価 評価方法
つかむ 3	◎全文を通読し、学習のめあてを持つ。 ①　くじらぐもの全文を読み、感想を書く。	○		○		ノート
	②挿絵をもとに「いつ、だれが、何をした」か話の大体を読みとる。 ③学習のめあてを決め、学習計画を立てる。	○		○		発言
	④新出漢字や語句の学習をする。	○			○	ノート
ふかめる 5	◎各場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読む。 ①くじらぐもと子どもたちの出会いの様子を視写したり音読したりして読み取る。	○		○		発言 書き込み ノート ワークシート 自己評価
	②くじらぐもと子どもたちのやりとりの様子や気持ちを想像して、役割を決めて音読する。	○		○		
	③くじらぐもに飛び乗った子どもたちと、くじらぐもの様子を音読や動作化を通して読み取る。（本時）	○		○		
	④くじらぐもに乗って空の旅をする子どもたちの気持ちを音読を通して読み取る。	○		○		
	⑤くじらぐもと別れる子どもたちの気持ちを読み取る。	○		○		
まとめる 3	◎くじらぐもに対する思いを手紙や音読で表す。 ①お話を読んで思ったことを手紙に書く。	○	○			ワークシート
	②手紙を読み合って友達の手紙の良い表現のところを見つけて、感想を発表する。	○	○			発言
	③新出漢字や語句の定着を図る。	○			○	ノート

７　本時の指導

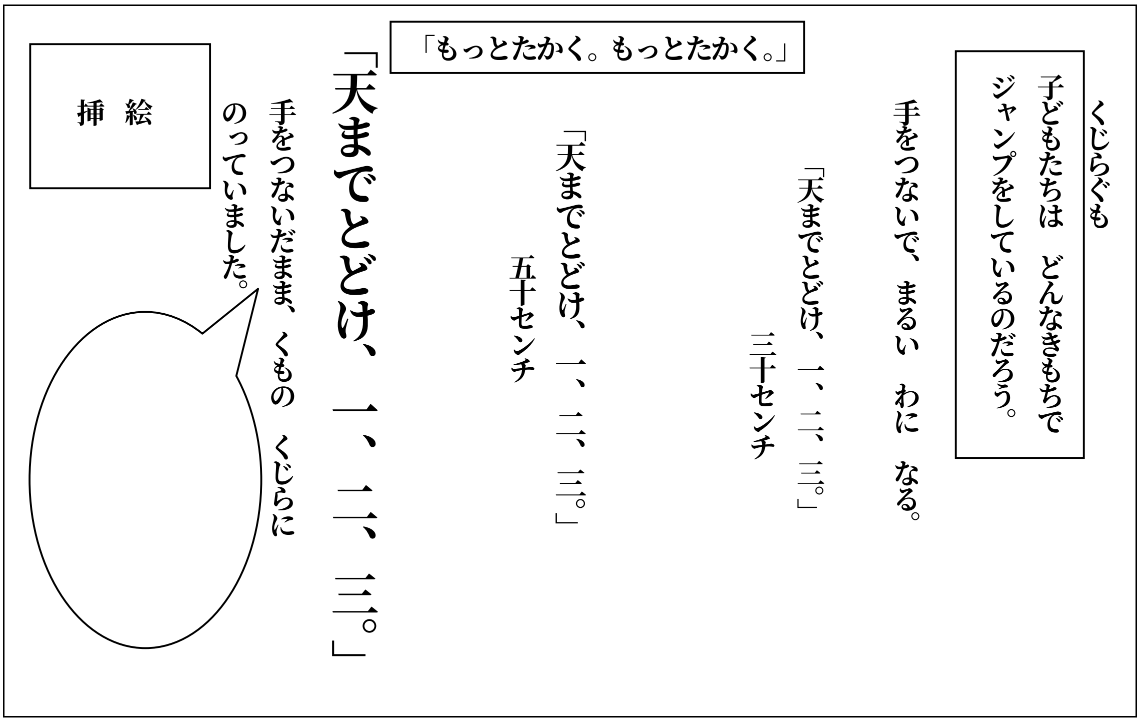
（１）目標

くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもたちの様子や気持ちを読み取ることができる。

（２）展開

段階	学　習　活　動	支援（・）と評価（○）
つかむ５分	１　前時の学習を想起する。 ２　本時の学習場面と学習課題を確認する。 子どもたちはどんなきもちでジャンプをしているのだろう	・掲示物により、前時の学習を想起させる。 ○学習課題を把握し、学習の見通しを持つことができたか。（関心・意欲・態度）
ふかめる２５分	３　学習場面を音読する。（Ｐ８・９） ・指名読み ４　一人学びをする。 ・会話文にどちらが話していることなのか、印をつける。 ５　学び合いをする。 ・「　　」の部分の音読のしかたとそのわけを考える。 ・考えたことをもとに、動作化を取り入れながら様々な形態で音読をする。 （一人読み・数人読み・役割読み　など）	・読みの視点を与える。（口を大きく開け、はっきりと読む、会話文はだれが話していることなのか考えながら聞く。） ・指差しをさせてから印をつけさせる。 ・くじらぐもと子どもたちの位置関係を確認する。 ・声の大きさや速さなど、音読のしかたやそのわけを考えさせる。 ・くじらぐもに乗りたい気持ちがだんだん強くなっていることに気付かせるようにする。 ・どこを工夫して読むのかを発表させ、一回目・二回目・三回目の会話文の違いがわかるように音読させる。 ○子どもたちになりきって工夫して音読することができたか。　　　（読む）
まとめる１５分	６　学習のまとめをする。 ・吹き出しを書く。 ７　自己評価をする。	・くじらぐもに向かって飛んでいる子どもたちの言葉を吹き出しにまとめさせる。 ○子どもたちの気持ちを考え、書き込むことができたか。　（読む）

（3）具体の評価規準

十分満足できる（A）	おおむね満足できる（B）	努力を要する児童への支援
徐々にくじらぐもに飛び乗りたくなる気持ちが大きくなっていることを、音読と動作化をもとに読み取っている。	徐々にくじらぐもに飛び乗りたくなる気持ちが大きくなっていることを、音読をもとに読み取っている。	教科書の地の文に合わせて動作をさせたり、動作をしながら会話文を読むようにする。

（4）板書計画